夕刊

京城日報

夕刊一部 定價金貳錢

發行所 京城府太平通一丁目三十一番地 合資會社京城日報社

湖南省南部 寶慶、衡陽を奇襲
敵の地上機二を撃破
海鷲、新春早々より大活躍

【上海三日同盟】艦隊報道部午後四時發表 一、昨二日午後海軍航空部隊は湖南省南部に於ける敵航空基地寶慶、衡陽を攻擊、何れも飛行場中心部及び附屬建物を爆破した他衡陽に於ては敵地上機二機を擊破せり、なほ他の有力部隊は陸軍部隊の作戰に呼應し貴池(安徽省南方)水塘湖附近に於て敵陣地を爆擊、これに多大の損害を與へたり

一、連日の如く雲南に飛び雲南府を中心に滇越鐵道沿線を反復攻擊せる海軍航空部隊はその戰果を擴大すべく昨日惡天候を衝き入佐、森兩少佐指揮の下に大界滇越線路及び鐵橋數ヶ所並にトンネル一ヶ所を爆破し、多大の戰果を收め全機無事歸還せり

全彈命中

【寫眞＝陸鷲蘭州大爆擊・陸軍當局貸下げ】

又も地上機三を炎上

【○○基地三日同盟】わが海軍航空部隊は二日に引つゞき三日再び湖南省寶慶を空襲大戰果を收めた、即ち[illegible]少佐の率ゆる○○機は猛烈な惡天候を衝して寶慶を襲ひ同飛行場に待機中の大型機七機を發見これに命中彈を浴びせ、中三機を炎上せしめ悠々歸還、更に午後一時[illegible]中尉の率ゆる一隊はこれに止めを刺すべく再度飛行場を空襲爆彈の雨を降らせこれを徹底的に潰滅全機無事歸還した

滿ソ蒙國境劃定處理
委員會設置に決定
きのふ外務省情報部より發表

【東京電話】帝國政府は滿洲國建國以來滿ソ、滿蒙國境に頻發した國境紛爭事件を根絶すべく滿ソ、滿蒙國境における紛爭を防止、且つこれを平和的に處理する使命を有つた委員會を設置することを適當なりと認め客年先づ東京並にモスコーにおいて野村、スメターニン、東郷、ロゾフスキー間で協議を進めた所、この程に至る大體帝國政府の提案を基礎とした國境劃定並に紛爭防止及び處理委員會を設置するに決定した、委員會設置の具體的要項については更に日ソ間に協議が進められる筈であるが、滿ソ滿蒙兩國境に新しく紛爭防止並に平和的處理の機構が創設されたことはわが外交調整の一階段とみられてゐる、右に關し外務省情報部は三日午後四時左の如く發表した

外務省情報部發表

帝國政府はさきに滿洲國政府と協議の上滿ソ滿蒙國境における國境紛爭を防止し且つこれを平和的に處理するため滿ソ滿蒙兩國境全般に亘り國境劃定委員會並に紛爭防止及び處理委員會を設置すべきことにつきソ聯政府と話合つた所ソ聯政府も右に同意したので右に關する正式提案を客年十一月十五日野村外務大臣よりスメターニン駐日ソ聯大使に提議しモスコーにおいても東郷大使よりモロトフ外務人民委員にこれを傳達しておいた、然るに客年十二月三十日ロゾフスキー外務人民委員部次長は東郷大使に對してソ聯側の意向として右提案の修正並に追加を求めると共に大體において日本側に同意を表明して來た、仍つて更に本問題につき折衝をつゞけることとなつた

本府明年度豫算
けふの閣議で決定

昭和十五年度朝鮮總督府特別會計豫算は豫て大野政務總監、水田財務局長東上、拓務、大藏兩省と折衝中のところ四日の閣議において左の如く決定した、決定額は八億三千八百萬圓で要求額八億九千九百萬圓を僅かに六千百萬圓の削減を見たに止まり、これを昨年度六億五千六百萬圓に比すれば、一億八千二百萬圓の飛躍的增加を示し新規事業その他も先づ豫想通りの好成績で時局認識の上にも大陸兵站基地としての半島の重要性に對する中央の認識の反映と見られる

大野政務總監
六日午後歸城

本府明年度豫算折衝のため東上中の大野政務總監は要務を終へて四日午前九時東京驛發、途中大阪に一泊、六日午後一時四十五分京城驛着あかつきで歸城することゝなつた

一時の録音

皇紀二千六百年の鐘音に、政界新黨の心配へに始まる。

×

さて、新春初頭のアドコの第一は、何といつても內閣の肚と腰との問題の打診。

×

支那新政權の陣痛を眼前に、ことでもよも退陣もなるまじ。

×

さればとて、依然たるみの日經は許す譯に行き申さず。

×

對議會策より自らの肚一つ。

×

金剛山の山火事は、朝鮮によつて關心の大事件。

×

下火の報は嬉しけれど、發火原因究明は徹底的なるべし。

政黨はどうなるか
河上丈太郎

河上丈太郎氏

一

政黨はどうなるか、この命題に答へるには一應政黨が歷て來た道を若干顧みなければならない。

私は、政黨政治は資本主義自由經濟と共に退陣したといふ考へ方を持つてゐる、昭和六年九月英國の金本位停止は、世界資本主義沒落のシグナルであつた、日本もまた間もなく金輸出を再禁止した。議會政治の本山である英國においては、マクドナルドの擧國一致提唱の下に政黨政治は事實上停止した。日本でも間もなく、五・一五事件の發生と共に、政黨政治は一應止めを刺されたのである。

その後、國によつて濃淡の差はあるが、統制經濟の進展に伴つて政黨政治はいよいよ沒落の色を濃くした。たゞ、我國の場合は、金本位停止とは時を同じうして滿洲事變の勃發があつたので、その意味が過小に評價されてゐる傾きがあるが、私自身はその意味を相當大きく評價してゐる。

周知のやうに、資本主義自由經濟は、金の自由移動を通じてその自然な調節作用を營んでゐた。金はいはゞ、自由經濟の神經中樞であり、その心臟だつたのである。從つて金の本來の作用が停止されたといふことは、自由經濟の神經中樞が停止したことを意味し、更に自由經濟そのものゝ沒落を意味した。而して、資本主義自由經濟と不可分な政黨政治もそれに伴つて沒落の過程に入つたのである。

二

『金』の機能喪失に伴つて新たに登場した經濟の統制者は『國家』或ひは『民族』であり、金本位停止後それは所謂統制經濟の形をとつて進展してゐる、この統制經濟は、簡單にいへば、政治が經濟に優越する經濟である。從來の自由經濟においては經濟が政治に優越し、時には支配してゐた。これは、經濟がそれ自體の中に統制の機能を持ち國家の發展又は國民生活の向上をそれ自體の機能の中に內包してゐたからである。だから、その時代の政治は、自由經濟の機能が最大限に發揮させることだけで充分だつた、時に、經濟に介入するやうな形をとることもあつたが、それは概ね補足的な役割においてゞあり、經濟の本質に立入ることはなかつたのである。經濟に對する政治の干渉が關稅、保護[illegible]等々―にのみ限られたのはこの時代の特色である。政黨政治は、かういふ經濟が政治に優越した時代に適はしい政治形態だつたのである。

元來、政黨政治といふものは、二つ若くは二つ以上の政黨がそれぞれ政策を掲げて國民の批判に訴へ、國民のヨリ大きい支持を得たものが政權を擔當するといふ仕組であるが、これはたしかに自由經濟の健全な時代に適當した政治の方法だつたといへよう。經濟はそれ自身の營みを持ち、國民の生活を向上させ國家の發展を揃つてゐた、この場合、經濟に對する政治の役割は消極的であり、受動的である。だから政黨が政權奪ひ合ひに憂身をやつし、本來の政治を怠つてゐても、その害毒は左程ではなかつた。むしろ自由經濟の指導者たちは、政黨が經濟の圏外にあつて水遊びをし、經濟の本質に立入らないことを歡迎してゐたのである。この時代にあて政黨は、何の苦勞もなく、恰もダービイの馬の如く華やかに政權のコンテストを行つた。

しかし、自由經濟が漸次行詰りに當面し、政治の役割が大となるにつれて、その擔當者としての政黨の價値が再檢討され初めたのは不思議ではない。しかも政黨は、政治が經濟に優越し、指導すべき時期に當面しながら相變らず單なる政權コンテストをつゞけたのである、こゝにおいて國民の信は彼等から全く離れ、自由經濟の晩鐘をつぐる金本位停止と前後して、政黨もまた沒落の過程に入つた。

三

私は、さきに統制經濟時代を、政治が經濟に優越する時代だといつたが、しかしそれは從前の、經濟が政治に優越した時代に對應しての言ひ方であつて、本當は政治と經濟が一體化する時代でなければならぬのである。政治と經濟の一體化の必要、これが私は將來の政治形態を決すると思ふ。

政黨は、自由經濟の行詰りに伴つて、政治が經濟を指導すべき時期に當面しながら、その能力なくして退却した。ところが、不幸にして五・一五以後政黨に代つたもろもろの中間內閣もその能力を缺如してゐたのである。それは、結局は政治に必要な國民的基礎を缺いたことに原因する。國民的基礎を缺いた『政治』は、政治に非ずして『行政』である。行政は政治の具體化過程に過ぎない。それは到底經濟を指導する力たり得ないものである。

ところが滿洲事變後の日本の現實は、ますます統制經濟の強化を必要とし、支那事變の勃發はこれに拍車をかけた。政治が經濟を指導することの必要はますます昂まつたのである。然るに、肝心の政治を擔當すべきものは『行政技術者』に過ぎない官僚であり、その上に乘つかつてゐる中間內閣だつたのである。日本の悲劇はこゝに始まつてゐる。『行政』はその能力を顧みず、現實の必要に迫られて經濟を指導せんとした。茲に能力の缺如から來る不備、不統一、摩擦が生ずるのは當然である。

しかも、支那事變の遠大な規模と目標は、統制經濟を未曾有の規模のものたらしめ、政治の任務をいやが上にも重きものとした。だがために、その重責が悉く行政技術者の肩にかゝつたのである。この點に於て、私は官僚にも少からず同情すべきものがあると考へる。官僚政治或は官僚統制の弊害を云々する前に、それを不可避ならしめた諸點の深刻な[illegible]に思到すべきである。

最近における政黨政治復活の要望は、『行政』が『政治』に代ること、即ち統制に堪へ得ず再び『政治』を呼び戾さうといふ痛切な國民的要求の現れであらう。その限りにおいてこれは一應是認し得るものであるが、しかし、それが自由經濟時代の政黨政治の再現ではあり得ないとは今更いふ迄もあるまい。往來の政黨政治は自由經濟と共に滅びた筈である。統制經濟強化の必要ますます痛切となつてゐる今日、經濟が政治に優越した時代の政治方法を復活することは事實上不可能であらう。問題は、政治が經濟に優越し、若くは一體となるべき時代の政治方法をどうするかといふことである。『政治』を探し求めて、挿入に踏み込んで囲いた古物を想起するのは一應の常識だが、時代はこの常識をもう一つ繰り返した、新しい思考と工夫を要求してゐるのである。

四

こゝで問題を更に一歩進めて、今後の『政治』が擔當すべき任務を考へてみよう、それは言ふ迄もなく大きく且つ重い、支那事變の完遂と東亞新秩序の建設はこの『政治』の如何にかゝつてゐるといふも過言でない位である。

しかし、たゞ『政治』の任務が大きく且つ重いといふだけでは不充分であつて、もつと『政治』の性格の中に突き入つた考察を必要とするのではなからうか、東亞新秩序の建設が國內諸般の改新と不可分なものであることは既に定説である、今後の『政治』は、經濟に對して著しく指導的であると同時に、改革的ならざるを得ない、改革的でない限り、政治の任務を完うし得ないからである。例へば、戰時經濟の最も中心的な課題である物價政策にしても、もはや眞實の意味の改革的領域に入らなければ、問題の眞の解決を圖り得ない段階に來てゐる。いま物價政策が當面する最大の悩みは價格を抑制することと物資の供給又は生産を增加することゝの調和の問題である。價格を抑へると物が出ないぞ、といふのが營利主義生産者乃至商人の側からの主張であり、これに結局は引きづられつゝあるのが、公定價格の引上であるが、しかしこれは現在の經濟機構をそのまゝ承認する立場に立つ主張であり、政策であるに過ぎない。これに反し、我々が絶えず主張してゐるやうに、若し米穀專賣制を斷行するならば、生産農民に適正な利益を保證しつゝしかも消費者に低廉な價格を保證し得るであらう。また石炭鑛業を國營化して、電力その他が基礎原料工業との間に綜合的な非營利主義經營を確立するならば、石炭增産と炭價抑制とを充分兩立せしむることが出來る筈である。今後の『政治』は斯る改革的な仕事をその性格の中に內包してゐる。それを通じて初めて、政治と經濟は一體化し、統制經濟をスムースに動かす體制が成り立つのである。

政民兩黨は、この仕事を充分に擔し遂げ得るであらうか、それは訊くだけ野暮であらう。資本主義自由經濟の温床の上に成長した政黨が、これを揚棄すべき『政治』の擔當者たり得ないことは贅言するまでもあるまい。しかしながら『政治』は絶對に必要なのであるから、何等かの形において、國民的政治力に基礎を置く新たなる政治指導體が生れることは必至である。それは或は政黨の形をとるかも知れないが、しかしそれを在來の意味の政黨政治の復活とみるのは當らないであらう。(完)

【筆者は衆議院議員、所屬は社會大衆黨である】

『三國志』梗概

後漢の建寧元年の頃、今から約千七百七十年ほど前のことである。黄巾の賊が蜂起し天下麻の如く亂れて諸侯亂立抗爭した。涿縣の劉備は關羽、張飛を知り三人は主從の義盟を結び、小兵を擧げて黄巾の大賊と戰ひ大勝利を得、[illegible]のうち[illegible]めて曹操と會見、互にその器量を識ずるが、劉備は未だ名もなき義軍の隊長として賊の有力武將張寶を打取つて征賊の殊勳なる名將と會見することゝなつた。之で三國爭覇の立役者曹操、劉備、孫堅が揃ふこととなるわけだ。劉備は僅かに中山府の尉に任ぜられ不遇を忍ぶうち、たまたま中平六年靈帝崩じ宦官十常侍、董卓等の醜惡なる政權爭ひが展開され、何后と董太后を擁する何進一族の醜い謀殺戮によつて、宮中は正に伏魔殿を現出するといふ有様であつた。

三國志 (101)

吉川英治 作　矢野橋村 畫

(出廬の巻)

舞刀飛首 (三)

何進が宮中から退出して來ると、

「將軍。どうでした」

と、彼の幕僚の陰に群つてゐた諸將が、小聲でたづねた。

「何太后に仰がれた、と聞いたので、案じてゐた所です。何か、宦官の問題で、御內議があつたのでせう」

「……ム。あつたにはあつたが」

「御決意を告げましたか」

「いや、此方から云ひ出さないうちに、太后から[illegible]の熟成しがあつたので」

「いけません」

曹操は、斷乎として云つた。

「そこが、將軍の弱點です。宦官どもは、一面にあなたを畏しいれるやうに、[illegible]や[illegible]が散つて、[illegible]しかゝると、太后の裾やお袖にすがつて、泣き詰めで禍へます。―お氣の弱い太后と、太后のいふ事には反かない、あなたの御所を彼等はのみこんでの仕事ですからな」

「成程……」

さう言はれると、何進も、頷ずく所があつた。

「今です。今のうちです。今日を措いて、いつの日が有りませう。宜しく四方の英雄に檄を飛ばし、以て萬代の計を、一擧に定められるべきです」

彼の[illegible]には、何進もうごかされるのである。成程と思ひ―それもさうだと思ひ―いつのまにか、

「よしつ、やらう。實はおれもそれ位の事は考へてゐたのだ」

と、云つてしまつた。

二人の密議を、[illegible]のおいてある樹陰の近くで聞いてゐた者がある。典軍の校尉曹操であつた。

曹操は、獨りせゝ笑つて、

「ばかな騷動をする奴もあればあるものだ。[illegible]は[illegible]にできてる物ぢやない。一個の元凶を除けばいいのだ。宦官のうちの首惡者を選んで牢へぶちこめば、獄吏の手でも事は片づくのに、諸方の英雄へ檄を飛ばしたりなどしたら、[illegible]は忽ち諸州の野望家の[illegible]となり、[illegible]となり、天下は忽ち大亂にならう」

それから、彼はまた、[illegible]

「……失敗するに極つてゐる、さあ、その先は、何んなふうに亂れるか」

と、曹操は、もう自分の[illegible]

けれど何進は、[illegible]はしなかつた。[illegible]のやうな小[illegible]でもないし、何進のやうな小[illegible]であつた。

彼は今、天下に名い野望家とつぶやいたが、彼自身もその一人ではなからうか。自ら好んで、唯々として何進の隨員に從いてはゐるが、どうもその能の中にある上官よりも、典軍の一將校たる彼のはうが、もつと腹の深い、もつと肚も黑い、そしてもつと器も大きな[illegible]者ではなからうかと見られた。

× × ×

茲に、西涼(甘肅省・蘭州)の地にある刺史は、前に黄巾賊の討伐の際の司令官ぶりは至つて香しくなく、亂後、朝廷から罪を問はれるところだつたが、內宮の十常侍一派を巧みに買收したので、不問に終つたのみか、かへつて顯官の[illegible]を占めて今では西涼の刺史、兵二十萬の戰力をさへ擁してゐた。

その董卓の手へ、

「洛陽からです」

と或る日、一片の密書が、密使の手から屆けられた。

社説

建設の意慾を盛る
昭和十五年度の本府豫算

昭和十五年度朝鮮總督府豫算は、四日八億三千八百萬圓と發表された。これを前年度豫算に比較すれば、實に一億八千二百萬圓の大膨脹であつて實に驚くべき數字である。而して集計せられた數字の面からのみみれば、その增加率は驚異的であるが、豫算の內容を仔細に檢討すれば、兵站基地建設豫算として、よくその本來の使命に立脚したものであつて、資材其他の制限が許されるとせば、更により大なる數字をみたであらうことは容易に判定されるところである。從つて內容の充實せることにおいて、數字の大なる以上に着目してみざるものであり、南總督の建設的部面が、愈よ全面的に擴張の上に現れ來つたと云ふべく、政府・經濟・教育・文化・交通の各部面とも、こゝに全く立脚的戰時豫算として編成されたのであつて、財務當局の勞は大いに多としなければならぬ。

◇

本年度豫算を通觀するにその大部分を占むるところは交通關係、生産力擴充、警察關係、國家總動員に關聯するものであり、こゝに全く戰時豫算が確立されてゐることである。特に稅制改正により新に設けられる地方分與稅七百十七萬圓、教育關係補助二百四十九萬圓が計上されてゐるのは、半島稅制の劃期的改正であると同時に將來への新しき方向を示唆してゐるものと云へよう。生産力擴充にあつては電力資源、工礦業方面に主力が注がれつゝあるは當然であるが、本年は殊に水產資源の開發計畫が決定されたのは、南總督の農工竝進の現れであり、戰時下食糧を主とする鮮水產物の重要性に鑑み食糧急速の增産を企圖してゐるのであつて半島の重要性を裏付けたものといへよう。これにより帝國食糧政策の上における半島の地位は決定づけられたといふも過言ではあるまい。貿易、電力資源等にも新規費用が計上されてゐるのは注目すべきで、特に外貨獲得を目指す貿易助成には相當の期待がかけられるであらう。

◇

又多年の懸案たる[illegible]豫算も愈よ七十萬圓の豫算を計上實施の段階に到達したが、半島農村經濟の上に寄與するところ大なるはいふまでもなく、これが國家總動員體制の確立強化に資するところ少なからざるものあるを確信する。志願兵訓練所、青訓の擴充、國民精神總動員その他の諸施設も愈よ本豫算實施により擴充が本格化されることになり、精動部に各種民間團體の活動と相俟つて豫算を貫く內鮮一體の理想實現の運動は益々活潑化を極むるであらう。之を要するに、東亞新秩序に即應する南總督の雄大な建設的意慾がよく豫算面に具現されたと云ふべきであつて、その基調をなすものは內鮮一體の不動の信念であることを指摘出來るところに、本豫算の重大なる意義があることを知らねばならぬ。最後に本豫算の運用に當つては、戰時下において政府が最も大なる消費者である點に心を致し、節約を第一義として、官廳自ら範を示すの綱紀と肅然を必要とすることを強調しておく。

興亞新秩序建設を衝く

白鳥敏夫 三島康夫 兩氏外交對談會【上】

[illegible]

……う少し強硬するだらう、かういふやうな考へ方が當然アメリカに起つて來ると思ふんですが……

白鳥氏 それはさう考へねばならぬだらうね、條約廢棄通告をやつた、これで日本は壓迫し得ると考へたが、これは日本の立場が一見非常に弱く思はれた時代だんだ、アメリカはかう考へてゐる、第一に日獨伊防共協定といふものゝ裏には必ず政府間の協定がある或種の軍事的密約があると一般に思はれてゐた、ところが支那事變を通じて日獨伊の間に密約が始まつたか、いろ／＼內容を見て見ると何もなかつた、單にイデオロギーの協約に過ぎなかつたといふことが判つた、而も國內諸勢力の反對があつて到底出來ないといふことを知つた譯です、さうして一見れば日本に對してアメリカは何にも容赦は入らぬ譯だ

第二に、二年半の戰爭で隨分日本は疲れて來てゐる、弱くなつて來てゐる、殊に物動計畫にしてもアメリカから物が來なければ絕對に出來ない、物動計畫の遂行は到底今の日本には出來ぬと見てゐる

それから又ソ聯とは益々關係が惡くなつて來て、いつ戰爭になるかも分らぬ、イギリスもフランスも依然として蔣介石を援けてをり日本國民は戰爭に自信がなくなつて來てゐる、茲で若しアメリカが斷然に輸出禁止といふやうな手を打てば、日本は一溜りもなく引込んでしまふだらうといふ見込をつけて、條約廢棄通告をやつた譯なんだ

その可能性が非常に大きい

かうなつて來るとアメリカも考へなければならぬ、日本を屈服するには、最後には戰爭も辭せぬといふ決意がつかねば出來ぬことであるからだ

これは別問題だが、從來の消極的な援けて、寧ろこの今のヨーロッパ戰爭を促進して來たのはアメリカなんだが、今のアメリカの輿論の動向では戰爭に入るまいと思ふ、アメリカとしては戰爭に引入れられるといふ形勢をしなければならぬ、又既にその危險がある譯ですので、アメリカは日本に對して強く出られない、通商條約廢棄といふ刀を振り上げては見たけれども、實に彈のやり場に困つてゐるのだ、ところが日本の方は強い決意をもつてゐる、アメリカはイギリスが東洋で無力になつたからイギリスの後見人を務める、かういふ態度をもつてゐるといふがアメリカとしてはじつは厄介な重荷を背負込んでしまつたのだ、イギリスに代つて支那で日本を押へるといつても實は彼等は實力を持つてゐない、日本がアメリカに對して强硬する要は結末もない

揚子江開放といふ問題、これはで、あれを閉めて來てゐる、實際はまだ日本が支那と今後どういふ關係に立つかといふことも決まらぬ時代に於て、政治的に揚子江を閉めるとか開けば租界を撤去するといふことはいふ立場ではない譯なんだが、これは實に眞の必要、戰

揚子江をどうといふの新しい支那を束縛ある、戰爭の都合と、あるならば、何もする必要はない、こ後も揚子江の航行權と外國に認めるといふわけなんです、實は後の支那がどう出るか基本關係がどうなるかと上で決定さるべきものであるか

【寫眞—向つて左が[illegible]三島氏】

るならば、そ[illegible]ひだと[illegible]日本[illegible]て來ると

ふことゝ新支那の建設とは別問題といふことですが、これは事實上の問題だといふ點につい僕は多少異論がある、揚子江一部開放といふことは、本當に新秩序を認めるといふことで一部開放でなければ一切を開放せぬ、から新秩序の問題如何にかゝらず、一部でも揚子江の開放をやるといふことは、從來の主張を一部抛棄したといふことになつて日本は新秩序建設といふ東亞における使命の一角を崩壞させたことになる

白鳥氏 すう、さういふやうに見られないこともない、要するに支那に於ける新秩序の建設を、新政權と關係なしに、日本の一方的にやるんだといふ事になるから正に君の言ふ通りだ、僕は九國條約の廢棄、治外法權の廢止といふことは、新しい支那をしてやらしむべきものだと思ふが、過渡期に於けるやり方としては、摩擦が少くつて効果の多い方法で進むべきだと思つてゐる、必要があれば日本がやつても一向差支へないが摩擦を少くしてやらうといふためには、支那の新政權を認めて、その新政權にやつて貰はう、新政權が東亞の新秩序を認めて、これを自發的にやる若しそのために國際關係に摩擦を起すといふことになれば、日本の實力を以てこれを支持するといふやり方をするのが外交處理としては本筋ではないかと思ふ、日本の革新派から不徹底といふ非難もあるかも知れないがその方法でやつて見ていけない時は、第二段の方法として日本が一切取上げてドシ／＼やつて行くといふことになる、無論今の政府當局が支那の新秩序建設といふ考を捨てた譯ではないが、今云つたやうな氣持があるものと僕は解したい

三島氏 何故ならば新聞がそれを遮つてゐる、新聞に傳へられたところでは揚子江の一部開放の問題に關し、何等アメリカが新事態を認めるといふ對象的な言葉が一つも出てゐない

白鳥氏 その點については[illegible]に對して勝手な解釋をし日本が譲歩するのだらといふ認識不足の解釋は[illegible]の考へてゐるところと自ら別だ、併しながら東亞の新秩序建設は日本國の精神に淵源してゐると政府でも屢々聲明してゐる、日本國の精神といふものは却々白人には解らない、又日本國民も解らずやうに努力してみない、之から先づ認めさせなくちやならぬ、その時アメリカも努ひとして無條約狀態に入る、或は日本品の輸入禁止をやるかも知れぬ、それでもいゝといふ決心が日本に出來れば一向差支へない、新秩序を原則的に認めなければ日本としては懸案の解決も出來ぬ、之も一つの方法だ、しかし揚子江を開くとか、その外支那の將來の大きな問題だ、今日譲歩する態度を執るのも、無論一つの方法である、僕はアメリカに對してはさういふ行方でない方がいゝと思ふが、僕は現にその地位にあつて日本の外交を擔當してゐる人達が、彼等の政策でやつて行くといふことを攻めるよりも本當に彼等が、新秩序建設の決意は治ら誤つておらぬといふならーその點に大きな不安はあるけれども、一國民としては一應彼等も日本人であるから、この聖戰の意義を沒却するやうなことはすまいとクレヂットを與へていゝと思ふ

三島氏 僕はクレヂットには與へられない、こんな內閣は潰めて貰つた方がいゝと思ふ、これは國內問題に深く關聯してきますから別問題としてこれでアメリカとの空氣が僕に當局の考へるやうに妥協して行くとすればその外の世界の新興國家群と云ふものとの關係は避けられないだらうと云ふことになる

白鳥氏 そこで一番重要な點は、現にドイツ邊りでは大歐洲にこれを氣に病んでゐるさうだ、今の日本の新秩序建設勢力はそれを期してゐる、日獨伊同盟を破つたのは同じ人達である、さうして英米と提携して行かうと云ふ氣持が非常に強い、それだからこれを切つかけにして日米の關係は漸々よくなつて行く、それに從つて日本は支那の解決を段々諦めて行く、遂に讓歩して行くと云ふことになればそれは日本國民は承知しまいと僕は思ふ、數十萬の英靈が由に迷ふことになると思ふ。若し又假に日本國民がこれを納得したとすると、日本の國際關係は却つて非常に惡くなる、英米と假に妥協した關係が出來て行くかも知れぬがこれは到底[illegible]にならぬ味方である、根本に於ては東亞新秩序建設といふことには彼等は徹底的に反對することが出來ない

これに反してドイツ、イタリーといふものは、これは日本が支那をどういふ風に處分しようと、一言も反對しない政府である、殊に英米の陣營にイギリスの東洋における不動の特權的地位を與へすといふことこそ彼等は欲してゐる、これと妥協するといふことであると、ヨーロッパの全體主義國家は非常に失望するであらう、從てこの今の戰爭といふことについても、彼等としては考へ直さなければならぬ、日本が若し英米と將來共同戰線に立つといふ可能性でもあると彼等はこの戰爭を打切らにやいかん、相當なところで妥協しなければならぬといふことになる、さうなればそのために、東亞の新秩序は完成せずヨーロッパの新秩序も完成しない、結局現狀維持勢力萬歲だ、彼等の空が再び回つて來るといふことになる、これは日本としては支那事變が大失敗となるのみならず、やがては大陸政策は全面的に後退して、滿洲等も怪しくなるといふことになる、これは到底あり得ないことだ、現在一部の勢力はこれに對して反動的なことを考へてゐるのだらうけれども、これは歷史の大勢上から、既に出來ないことだ、しかし無論吾々としては大いに關心を持つて、政府のやるところを監視しなければならぬ、しかし心配はいらぬ

三島氏 僕は非常に心配してゐる、何故ならば現代樞軸から英佛米側に傾いてきたといふことそれ自體が、要するに歷史に逆行するもので、從つて新秩序を作るとかいふ問題からは遠く離れて、反對の舊秩序を維持するといふ方向へ動きつゝあるものと斷定せざるを得ないと思ふ、さういふ方向を取つてゐる政府へクレヂットを與へてゐるといふことになるんです、今政府がアメリカに對して取りつゝある行動は、その方向へ向つてゐると思ふ

白鳥氏 さう無論考へていいんだけれども、それは一時の後退現象であつて、その原因と見られるものは、取去られてゐるんだ、日獨伊同盟交涉は獨ソ條約が出來て、日本の機構がドイツに對して冷却してしまつた、所謂國內における舊秩序勢力は、こゝぞとばかり英米との妥協を一擧にやり國內を舊秩序に向して行くといふ大それた考へを起した譯なんだ。さうして政府もさういふ勢力によつて動かされた、さうして今の日米交渉といふところまで來た、しかし情勢はすつかり變つて[illegible]が出來たといふとは却いて日獨伊の樞軸を強めてゐる結果から見て冷却しやうがない、國民の大多數のものはやはり依然日獨伊樞軸といふことが頭から去らない、今日の世界に於て日獨伊樞軸の動かすべからざるものゝあることは事實なのだ、我國內においても舊秩序の維持は聖戰の意義を沒却するといふことを、みんな今日は考へて來た、これではならぬ、要するに日本の政治、日本の外交が決定しなかつたといふことは困難だ、[illegible]勢力が政權を握つてをつて日本が樞軸の新興勢力と提携しないのだといふことが非常に明瞭になつて來た、明瞭になつて來たといふことだけで最早一歩前進したと、さういふ風にみて僕は樂觀してゐる

三島氏 國民にさういふ認識が強くなつて來てゐることは確かです、ところで政府はこれと反對の方向を取つてゐることは政治的に、社會的にどんな現象が起るか、これは非常に危險だと思ふ、さういふ危險が僕は非常に差迫つてゐるやうに感じてゐる

白鳥氏 どういふ風にこれを政府が引張つて行くか、これが國民の間に浸み込んでゐる考へ方なんだね、吾々は具體的にどういふ風になると想像も出來ないけれども、殘念ながらこの儘で押込まうとすれば爆發する

三島氏 爆發した場合一番恐しいことは、支那、滿洲へ出てゐる百萬の軍隊がどう思ふか、一番恐しいのは……

白鳥氏 百萬の軍隊も亦銃後の國民も同じことになるだらう

三島氏 それからドイツの最近は日本に對する感情が非常に惡くなつて來た、これは二つの原因があると思ふ、一つは英米側に日本の政策が向きつゝあるといふと、もう一つは日獨伊樞軸に失敗した時に、日本といふものは個人主義的な利害の打算からのみ日獨關係を考へてなつた、例へばドイツが和蘭へ侵入すると、それ蘭印を取れといふやうな言論が出たが、之は注意すべきものだといふ風にドイツの新聞に書いてゐますね、最近日本に對して根本的に考へ方を變更してゐるんぢやないだらうかといふ心配があるんです

謹而奉賀紀元二千六百年之新春
祈 皇軍之武運長久

- 中華料理 德盛園 電話六五番
- 兼二浦大正町 崔一龍 電話一一二番
- 兼二浦 黑野活仁堂藥房 電話三六番
- 兼二浦月峰公立尋常小學校 職員一同
- 兼二浦本町 小上馬商店 電話五八番
- 黃州郡長 沼熊太郎
- 黃州邑小學校長 前原正二
- 黃州 飯島幸平 電話十五番
- 黃州 趙基元
- 黃州 李東熙 電話三七番
- 黃州 志賀農園 電話三二番
- 兼二浦 西海園 電話五四番
- 兼二浦 雲海樓 電話一八番
- 兼二浦本町六七 東海園 電話一三六番
- 兼二浦 吳鎭憲 電話二四番
- 兼二浦 カフエー日光
- 兼二浦本町 四國屋旅館 電話九番
- 兼二浦營業所 電話一〇〇番
- 兼二浦 松屋酒店 電話五一番
- 兼二浦本町 井原伊之助 電話二三番
- 兼二浦果樹園 守富梅太郎
- 兼二浦本町 樂浪製陶所 村田喜三郎
- 兼二浦本町 宮野醸造場 電話一〇四番
- 兼二浦 市川商店 電話二五番
- 兼二浦 樋口垂水
- 兼二浦 長春館 電話一〇八番
- 兼二浦 土佐國太郎 電話三八番
- 兼二浦 腰高彌太郎
- 兼二浦 矢野商店
- 兼二浦本町 金秉濟 電話六三番
- 兼二浦 水落富次郎 電話四一番
- 兼二浦 漢城銀行支店 電話一二四番
- 兼二浦 清繁 電話二九番
- 兼二浦 伊藤慶博
- 代表者 木元龜吉 電話一三五番
- 兼二浦 姜貞顯 電話一二三番
- 兼二浦警察署 署員一同
- 黃州產業組合 電話一一四番
- 代表者 穗坂秀一 電話六番
- 黃州邑
- 黃州 佐々木con雄
- 黃州 朝鮮産業株式會社 電話四四番
- 朝鮮興業株式會社 黃州支店 電話一六番
- 黃州郡學校費
- 兼二浦藝妓組合 組合員一同
- 田中達男
- 竹園尋常小學校 職員一同
- 兼二浦高等女學校
- 兼二浦本町 堺屋金物店 中野三郎 電話二〇番
- 兼二浦 植田虎吉
- 大同館 電話六二番
- 兼二浦邑長 森林京太郎
- 兼二浦 岡組出張所 電話四二番
- 兼二浦本町 土木建築請負 播磨谷新太郎
- 合資會社 森農場
- 三菱鑛業株式會社 兼二浦鐵山 黃海道兼二浦邑水道町十一番地（兼二浦驛前）電話十六番

皇紀二千六百年の半島體育座談會（二）

兵としても強い
運動選手の戰鬪意識

輝く皇紀二千六百年の幕が歡喜の合圖と共に揚つた、同時にわれ等國民に課せられた宿題のうちで、體力向上こそは建てられて行く新東亞の礎石なのだ、先づ體をつくらねばならない、そして強力日本を建設して皇國の干城たらんとするのである、こゝにおいて、二千六百年の體育運動の意義は總てが須く〝國防のため〟の道程を驀進してゐる、それには半島體育界の氣構へはどうすればよいのか、半島の體育界の進路を皆言ふ四權威はかく喝破してゐる、東京オリンピックなど何のその―力の半島の前途は隆然と進められるのだ、しかも二千六百年を土台として―

時　十二月卅日
場所　朝鮮ホテル
出席者　▲高元勳（體協會長、中樞院參議）陣之內鎭雄（武德殿々長）藤井秋夫（體協、城大體育部長）野副研介（軟式庭球聯盟常務理事）▲本社側松本社會部長、大津小與部長、外二記者

陣之內氏　劍道は一寸我田引水になりますがこれは特に所を嫌はず、人數のことを論ぜず、それこそ老幼男女の差別なくやれるので御座います、何よりも趣味をもつてやらせることが六ヶ敷ところで御座います、高先生がお話になりました何處でも誰れでもやれるといふの點では劍道は出來ます、一人で竹や棒さへあれば始められます場所も何處でも構はん部屋の中でも出來る、然しこれをやるにも型があり約束がありますが、これは設備がなくてもやれることは、やれますので一番好いのであります

先程も申上げましたやうに興味が出るまでやらせることが一番六ヶ敷いのであります、劍道、武道の如きはこれに限りませんでせうが誰でも時間の多少を問はずやれるのでありますが興味を持つといふことは困難であります、私はこの京城に明治四十四年からお世話になつてをります、種々御機嫌を取つて或時には[illegible]の中でやらして頂いたり或は[illegible]でやらして頂いた或日は龍山の新設兵の[illegible]でやつたり漢江の河原でやらせて頂いたりして今日漸く夫れが軌道に乗りかゝつたところでありますがこの興味が出るといふまでには六ヶ敷い、殊に今日の時局で御座いますから特殊のお力を借らなければならんと思ふので御座います

高氏　世間の人の中には時にはは選手諸君に拗た氣の毒な惡評をする人がある、卽ち運動の上手な人は他の方面に短所が多くあるといふ、私は運動に關係する一人として斯る誤認に思ひ過誤に堪へません、私は我々の關係する部門の青年諸君は人格に於て見識においても精神に於ても申分ない人々ばかりと思ふ、殊に運動選手ならば申分ないとと決つゐる、かういふ風に思つてゐるし是非さういふ風に進めて行きたい、選手卽ち人格者と私は信じてをり斯くせねばならないと思ふ、然るに世間に往々誤解する人のあるとは遺憾に思ふ

我々は一層の努力を傾して凡て關係者が世の模範的人物に淘塑されるやうに築き上げたいのである

藤井氏　それでは一寸申上げます、私共の關してゐる限りに於ては運動の選手は絕對に代表的の人物が揃へたい、それでなければ運動の選手にしないといふ意見で御座います、假令ば今直接關係してゐる運動の選手で朝鮮側からいひますとスケートの金正淵君にしても、[illegible]君にしても安君にしても私共が見るところの總ての點において運動の選手として揃つてゐたいと思ひます、西川にしても楠津、川西にしても何の點においても私は非難すべき點はないと思ひます、それから陸上競技でも庭球でも決して私は運動の選手は自分の知る限りにおいては劣つてゐないと思ひます、運動の選手は人の眼を惹き易いものですから偶に一人惡いものがあると運動の選手はいかんといはれるのであります、それから陣之內さんとこの相內君は五段でありましたが今山西に行つてをりますね、模範的の將校として働いてをられますが運動の選手だから何だといはれたことはない、運動の選手は照角が確實だといはれます、總ての點に就て非難を受けず皆認を受けてゐる、これは逆に恐らく殊勳甲に値するだらうといはれてをります、それですからその點は諒解して頂きたいと思ひます

高氏　それを期待してをります

野副氏　私も大分運動の方に關係して來ましたが選手は確かに强いですネ、私も兵隊に一寸行きまして昨年の張鼓峰事件に召集されて行つたのでありますが運に勇氣が何處か違ひまして目的物に向つて進む場合に何んといひますか、運動精神の發露といひますか、機會を作ることが上手だといふことですが一般の人に劣らぬ勇敢さです、僕は現役兵でないので第一線の經驗はないが選手は長い間鍛へられた身體と精神で第一線で相當の潑剌に大いに働いてゐるだらうと思ひます

藤井氏　眞の運動精神といふものは日本の運動も武道も外國のものも變りはないと思ひます、それこれと區別する必要はない、運動選手はどれでも同じことと思ひます、强ひて日本のもので擬劍でなければならん、弓道でなければならんとか外國の圓板投とかハイジャンプはいけないとか、いふやうな區別をつける必要はない、同じものと思ひます

陣之內氏　日本のものにしてしまへば皆おなじでございます

高氏　その通りです、野球が日本に來たら日本化してしまへばよいし庭球なら庭球でこれあ日本化してしまふ、外國のものでも日本化してしまふ、既に何れも日本のものです

大津氏　（本社）總て日本が選手になつたやうな氣持になれば好い、私は山西に行きまして、戰軍に加はつて行軍をやりました、その時に運動の選手が大部をりましたがよく戰苦に耐へて眞面一つ崩さず實に立派なものでした、全部の者が運動選手ですネ、これぞ運動の方にも入れて全體が困難に耐へるやうにする必要があります、國際選手の遣方は非常に好いですネ、頑健な人は百米を十一秒か十秒で走つたつて何になるかといひますが大變な間違ひだと思ひます、一ヶ師團全部が一人も落伍者のないやうにしなければならんと思ひました、戰鬪力は勿論士氣が大變違つて來ますからネ、百米、二百米を走るとを顧走して何んになるかといふが私は矢張りその精神です、戰場に行散する、愈よ決戰の場合にぶつかつた際、餘程運動をした選手は違ひますヨ、でない人とは……そこが運動を奨勵する目的であります

藤井氏　今のやうに極端な例をいはれましたが實際さうであらうと思ひます、しかし、又それが目的でもあるのです、テニスで鍛へた劍道で、鍛へた柔道で、鍛へた何んでも好い譯です

高氏　それだから一般がやらなければならんと思ひます

藤井氏　やるといつてもラクビーを少しやる、柔道も劍道も何んでも少しやつてゐる噂、といふのでは何んにもならんと思ひます、ラグビーでも、テニスでも相當のところ迄行くやうにしなければならん、そこ迄頑張つて貰ふ、そのことが必要ぢやないかと思ひます、それでなければ何んにもならん、結局やらんでも同じだと思ひます

松本氏　要するに今迄は個人主義でかういふ凡な考へ方に煩はされてゐるのではないでせうか

藤井氏　私の關する限り運動の選手一同一生懸命家に歸つて勉强してゐるし、決して外の生徒に劣らない、勉强に耐へられないやうなものは運動も出來る筈はない、これは私絕對に自信を持つて申上げます昔はよく選手なんかになると酒を呑んで醉つぱらつてゐたものがありましたが今日は絕對にありません

高氏　私は世間が惡いと思ふ、世間が餘りに選手だといふと容赦なく苛酷に批評し觀察する嫌がある、私共のやうな立場にあるものは選手に向つて君等が社會から青年の目標として見られてゐるのだからなるべく模範になれといふことを進める、かう意味であり、ましてや運動の程度が惡いといふことを言ふのではなくして惡く言ふのは世間である、これは運動の將來に大いに妨げになります、運動をやつたためだとかういはれないやうに指導しなくてはいけないといふことを心配するわけです

藤井氏　普通の者であれば何んでもないことでも運動選手には一つの目標になる

高氏　同じです

藤井氏　觀衆の訓練には非常に骨が折れますネ

高氏　私に運動學校の開始に際しては選手に對し先づ注意し觀衆、應援團に對し注意する、グラウンドといふ所は道場である、學校である、學校に參觀に行つた氣持、或は劍道とか柔道の道場に參觀に行つた氣持でが行物を見るといふさういふ心理でなく、殿嚴な氣持で見て貰ひたい、世君方が學校を參觀に往つたときに學校の先生の教が自分の意見に反したことがありとて反對する者もありません、これと同じやうに若し審判が不明の點があつてもそとは學校の教師と同じであるからそれに對して皆さん觀衆や應援團が騒ぐ、或は皆を揚げて騒だりするのは過ひであると必ず注意しておきます、最近は餘程良くなりましたけれども要するにまだ徹底しません、これは我々の微力の所以なるを以て向後一層努力して所期の目的を達する樣にしたい

藤井氏　陣之內さんの方でも小手が入つたと一般の者が思ふが審判に聞くと違ふといふ素人の見るところと全然違ひます、運動の方でもこれと同じやうなことが澤山あります

陣之內氏　それは私の方にも澤山あります、小手が遲かつたとか、色々觀戰者と審判者は違ひます

藤井氏　素人は自分の考へでいかん審判はいかんといふ自己の考へでいはれたのではとてもこれは堪まりませんです

松本氏　民衆の教育といふことについて一番よい模範は矢張り何んですネ、武道ですネ、あれは見るとか觀戰するといふのでなくて武道の場合は見學であります、あれがよいですネ

陣之內氏　それでも私共はあちこちに參りました明治四十五年ごろ神宮の道場で行ひました劍道試合或は野外試合を行ひますといふと初めは無意識でゐない、やれやれとか今のは入つたとかいつてをりましたが近頃はそれがまるで違つて參りましたので人が理解して今のは審判が違つてゐるぞとか或はなつてをらんとか、やれやれといふことをいひません、それだけ違つて參りました、やる人が確りやつてゐる、眞面目に眞劍的にやつてをりますから見る方も眞面目になつて參つたのであります、矢張りやる方も眞劍であり眞面目でやると自然みる方も眞面目に見るやうになります、少しでもやる方がだれるとか眞面目を缺くといけません

新入幕力士

【東京電話】撥時の東西〇復活昭和十五年春場所番附に顏觸の新入幕したのは出羽ノ海部屋の櫻錦、四海波、井筒部屋の小松山、九ヶ錦の四人で春場所の力戰が期待される

皇軍慰問金

―三十日扱―

一金　五圓三十六錢也　黃海道新幕　樹德公立小學校　郭錫守外二三二名
日計金　五圓三十六錢也
累計金　八萬五千二十三圓四十六錢也

國防獻金

一金　十五圓也　京城府竹添町一ノ八三　廉間　三
一金　五圓七十一錢也　京畿道驪州郡　加南公立小學校兒童一同
一金　一圓十五錢也　黃海道新幕　樹德公立小學校　李斗　錫外五名
一金　一圓也　京城府漢江通一六ノ二〇　江野道弘
日計金　廿二圓八十六錢也
累計金　七萬八千壹百拾八圓四拾壹錢也
總計金　拾六萬三千百四拾壹圓拾七錢也

庭球の王者半島
軟式庭球聯盟　野副研介

東亞に光被する世紀の黎明、聖戰第四年目を迎へた吾々は赫々たる希望と共に、昭和十五年に生をうけた無上の皇紀二千六百年に何を覺悟し、無敵皇軍の如く何を目的に邁進すべきか

各運動部門が統制されて第二回の本年は更に強化されて、國内的に多忙な劃期に比なき成績をもたらすであらう

各體技部門に比して全國的に統制的に普及してゐる「軟式庭球」が本年を期して邁進する感を深くすると同時に、限られた「ボール」に對して、如何に分布し合理的にするかは、日本庭球界の先決問題である

吾々は一部的に各道支部の再機構強化―從來朝鮮體育協會を中心に各道に支部が設置され道の各運動部内を統制すべく組織が有名無實の感あり、體協と協力以て完全なる方針により、運動團體の統一「軟式庭球」の統一を圖る覺悟である

更に、常に指導的立場にある第一線選手の一段の強化、選手、中等より專門への指導は萬全なる機關を設置して進む方針である

以て「庭球朝鮮」における專門、中等學校の對抗競技、一般部内の樂ある「八年連勝」は吾々の責務とされた年である

外部には、伊勢、明治神宮大會が盛大に擧行され、今夏には新京において鮮滿對抗戰第三年目を迎へられる、更に東亞大會が新しい都、北京に開催さるると聞く、「兵站基地朝鮮」の如く「王座庭球朝鮮」の地位の確保に一路前進を獲得すべく協力一致、友邦滿洲國の指導者となり、興亞的に普及しつつある北支、中支の軟式庭球に對して協力すべく年頭にあたり念ずる次第である

家庭

……カットは合田正臨氏……

内鮮ともに進む道 …朝鮮の婦人に贈る言葉…

【下】 津田節子

勿論此の内地にも、妾を持つ男、月給を妻に知らさぬ夫、妻を人間として取扱はぬ家庭もあります。併し多くの問題はその時代その時代で悩み苦しみ、而して國家を中心に解決して來た問題なのであります。男女同權論的な議論も、經濟的獨立の意見も全部解決ずみだとは申しませんが、社會の輿論として婦人達が論じあふ時代はすぎて、あとは政府に委ねてよい時代になりました。ほんとにありがたいことでございます。

……×……

そこで私は思ひます。内鮮一體の生活指導の確立のみがこの問題を救ふと。内鮮に根ざす内鮮一體の具體化のみがこの悩みを救ふと思ひます。

これら矛盾は、歐米依存の立場又は歐米を師とする立場に於ては決してよい解決は得られません。

嘗て歐米宣教師より外に、生活指導をしてくれる人のない時代がありました、それらの人の教育機關が一番文化的で優秀であつた時代がありました、米國留學生が一番進歩的な生活改善者であつたこともありました。

日本の教育は自然と知らずくの間に溶けこませ浸みこませる流儀で――つまり無意識的教育は出來ても、積極的意識的教育は下手なのです、長くつき合へば解りますが、一寸のことでは心持も通ぜず、又進んで我から交際しようとしない、さういふ内地の人が多すぎました、また朝鮮の人々のためによい指導の出來る人も少く、それ自身の精神生活、物質生活が共に不完全であつたともいへると思ひます。それ故に朝鮮婦人の進歩的な分子が右々として歐米依存に走つたのも無理ではありませんでした。

併し今はちがひます、はつきりと他に一つの道が開けました、内鮮一體明朗な新日本生活への道であります。

……×……

朝鮮のみなさん聞いて下さい。私達にあなた方のよいお友達になろうと思つて手を開いて待つてゐます。あなた方と御一緒に進ませうと思つてゐます。細相談もしませう、勉強もしませう、何かもいひ合ひませう、色々敎へて下さい。私達もお敎へしませう。歐米人に頼つたのは昔のことです。入らないお世話だといふ人もあるかもしれませんが、本氣で私達が手をつないで努へて少くとが一番自然で正しい事でせう。同じ両背人にものを使はうとしないでも、西背人のもつ生活上のよさは、内地のよい生活の中に取入れられてゐると思ひます。しかも日本に合はないものはちやんと調節して。信じて頂いてよい時代が來たと思ひます。内鮮兩方の女學校でも内鮮一體の家事教育が具體的に立てられるでせうし、母親教育、社會教育に於ても、内鮮婦人それぞれに新しく勉強しなければなりません。それによつて内鮮人共に必ずえらくなると思ひます。

……×……

殊に朝鮮の若い娘さんたち！新しい朝鮮の青年の健康な生き方を信じて上げて下さい。その人達の郷をあなた方の郷御の說明によつて解して上げて下さい。日本を學び、日本を知り、日本を愛する生活、そこから積極的な工夫も、積極的な勇氣も生れ出るでせう。

大丈夫、胸をたゝいて私はいひます。「日本を眞劍に學んで下さい、あなた方が幸福になる道はこれです」と。

あなた方は、衣食住の矢面を、しかも時代的な複雜さまで背負つてゐますけれど、きつと切りぬけられると思ひます。

「日本と共に歩くこと」そこにすべてが成長します。

日本大皇の御理想がはんたうに正しいものであるからです。日本の御理想がはんたうに隠れてゐるからです。よし現在の日本に部分的矛盾があつたとしましても。

これが紀元二千六百年を迎へた今日、朝鮮の婦人達への呼びかけの言葉であり、私自身この年の自らの仕事への誓ひの言葉であります。

長壽と榮養問答【上】 菜食と肉食の長所短所

「昔から菜食は長壽の秘訣、肉食はいけないといはれてゐますが果してさうでせうか」

それは亂暴至極な考へ方で菜食には菜食の長所と短所があり、肉食には同様のことがいへます。どちらに偏してもいけません。

「ではその長所と短所とは」

お斷りして置きますが、菜食といひ、肉食といつても程度問題で肉食だけをする人も菜食だけをする人もありますまい、つまり、絕對に野菜類を食べぬ人がある譯はありませんからこゝでは單に菜食と肉食といふ觀念上の分け方でお話します。

肉食は病氣に對する抵抗力が少くなつて來る。菜食だけでも完全に身體を成育させることは出來ない、又肉食では無機質とかビタミンとか缺如する、一方菜食だけでは血となり肉となる蛋白質が足りない。結局どちらかでも一方に偏しては病氣に對する抵抗力のある身體を作ることが出來ない。病氣になり易い、病氣になると癒らない、結局死ぬことになります。尤も菜食とか、肉食とかいひましても、この場合は副食物のことであることは申す迄もありません。

「でも百何歲までも生きてゐると、ふ様な長壽者は、殆ど全部が菜食主義者といはれますが、」

これに

老人が肉食を主にしてゐたら大

變です。老年期になつて、活動することが少くなると菜食を主にしてゐた方がよいのです。だから長壽者といはれる様な老人になると菜食を主にすることになり、又誰もさうなるのです。身體を作る時代、それを活用する時代ではなく、身體を保つ時代だからです。それが誤られて長壽者は全部菜食ばかりしてゐると思はれてゐるのです。

「では食物つまり榮養は年齢に應じて變へて行くことになるのでせうか」

さうです。それが最も大切です

「さうすると、その時代に應じてどんな食物を選ぶべきでせうか」

一口にいへば發育期には身體の成長、完成に役立つもの、壯年期では活動するのに必要なエネルギーとなるもの、老年期では身體を維持し、高血壓とか腦溢血とか、老人病を起す病氣にかゝらぬやうな食物を選ぶのです。【榮養研究所 [illegible] 氏談】

國產輸出品 商品學 (一)

外貨獲得の選手 生糸から陶磁、セメント

四億萬圓丸取り ―(生糸)―

日本の特產品の大宗と云へば何を措いても生糸を擧げねばならない、生糸は久しいこと我が重要輸出品のナンバーワンであつたが、昭和九年以來その地位を綿織物に奪はれてしまつた、とはいへ、その綿織物の輸出額六億萬圓に匹ゃんとする莫大な金額も原料棉花の輸入によつて相殺されてゐる形だから外貨獲得の花形としては四億萬圓丸取りの生糸に光榮の上るは勿論のことである、外に絹織物として年額五――七千萬圓の輸出があるから我が國の國際貸借改善上に寄与する所は依然大きい

日本の土と石 ―(陶磁、セメント)―

次に日本の土と石から生れ出る陶磁器といひセメントといひ、功績も實に大きい、卽ち我が陶磁器については世界第一、我が陶磁器などの類々まで行きわたつてゐる製品で、我が重要輸出品中でも何時もベストテン内にある輸出品であるが、支那事變による日貨排斥では一番目の犧牲にされその影響も大きかつたが、然し歐洲戰爭の爲め競爭相手の獨、英、伊、製品が世界市場に杜絕するとすればそれこそしめたもの、輸出最盛記錄の昭和十二年五千三百萬圓を突破するのもさして難事でないかも知れない、セメントも原料の石灰石及び粘土が豐富に得られ、その上米、英、獨、佛等の生產國と並び氣候の關係で一年を通じて平均的に生產し得るので比較的品質がよく安くてよい品を造り得るので東洋は勿論アフリカの奥まで進出して年六――八百萬圓に輸出される (近藤隆三)

★北アメリカ……紙屑を散らすな ペンシルバニアのコーテスヴイルは紙屑を散らすものを嚴重に取締つてゐます、先日七人の青年たちが紙屑を散らしたといふので逮捕され、次の文章を百回書くことを命ぜられました こゝはあなたの町です――道路に散らしません

新春の誓 (四)

新聞を戰地に

軍曹一ノ瀨遼次夫人 一ノ瀨春子さん談

光輝ある皇紀二千六百年の新春を迎へまして、この榮えある年にあひましたことをこの上なくよろこばしいと存じます、そしてますます國民の一人としての責任の重大さを今更ながら感じさせられます、結婚後間もなく主人が出征致しましてさゝやかながらも一家の主婦として留守を守つてゐます

銃後の婦人になりますときと違つて俸給生活者としての意識もない私には責任が重すぎるやうな氣も致します、しかし戰地で不自由な生活をしてゐる主人のことをおもへば何が苦でございませう

戰地へは月に少くとも二回はお便りを出してゐます、毎朝神前にお祈り致しましてあと京城、大阪、東京の新聞を必ず私が列名を書いて送ることが私の日課で、これは戰地の主人に留守のものが變りなく元氣でゐることを毎日おしらせするためでございます、そして時には主人がお世話になつてゐます部下の方々に心ばかりの品を送らせていたゞきそれを私の生活の慰安にしてゐます

何はともあれ、たゞ戰地の主人をして絕對に後顧の憂ひを抱かせないやうに致しまして微力ながらも皇國のために盡力していたゞきたいのが、今の私の唯一の念願であり、祈願でございます

これは重寶 入營旗の更生

入營のときの祝旗も、澤山ありましたら、そのまゝにしておいては勿體ないから、次のやうにして利用しませう

粉石鹼などといた水の中にしばらく浸し洗濯板の上にひろげてたわしでこすります、これで大抵の文字はうまく消えてしまひますから、これをピンクや黄色うす緑などに地染めをしてから、縫取り染めしますと、すばらしい布に更生します

春庭　橋本明治（文展）

新しき生活意識
―迎年に際して感新たなり―
朴熙道

新らしい年を迎へるに際して生活の更新を自ら図らんとすることは、各個人の誰もが考へることであらう、そのことは又、新らしい時代と新らしい家理念に生きんとする國民の一個的な生活觀念でもあるのだ。

生活の原理なくして、正しい生活態度のとれないのも事實であらうが、原理なるものも、常に生活の實際からはなれた抽象的なことだけでは無意義である。今日は事實の世紀といはれることにも一理あるやうに、現實は常に具體的な國民化又は意識をなし、それは一體たりとも歴史の流からはなれるものではない。理論は生活化され、それが生きた人間の生ける生活の血肉とならなければならない。そして、その生活原理たるや、國家的な國民生活のそれでなければならぬ。又それは飽までも現實の生活にしっかりと喰ひ入り、それからにじみ出たものでなければならない。ふるいある特殊な人生觀にとらはれて、それに盲從的な未練を以て、今日の新らしい國民的生活意識を忌避するやうなインテリ層がまだ一部にくすぶってゐることは、實に氣の毒な話である。

しかしながら、吾々は生活を云云し、それの刷新を謀らんとする際に、目の前に幾多の不都合、不合理的な事實を見て啞然たらざるを得ないものがある。

國民生活の刷新は、國家を本位とする觀念ではあるが、それといって、それは何も個人の生活意識をはなれたものではなく、その個人の意識と生活實態が、さういふ國民的な自覺を持つことから發足すべきことを意味するのである。

社會的に國家的に、國民の生活が安定するといふことは、それぞれの人々が、それぞれの特殊を徹分犧牲してまでも、大きな國家道德の基準の上に「平衡」がとれることを前提條件とすると思ふ。この「平衡」の獲得な破戒者は何者か。

我々は多數の國民が、戰時臨戰と、大旱害のために、都會では、米の一升を求める國民が米屋の前に長蛇の列をつくり、農村の人人はそれこそ草根木皮をかぢってゐる現狀の今日において、あり餘る程金錢を持ってゐる部類の人たちが、今日如何なる生活をやってゐるか、これが又國民生活道德の平衡を如何に破ってゐるかを知ってゐる。

もう不自由になった人々の生活は、お互の上で戰時生活を意味してゐるのだ。彼等は忍從して行くだけで精一杯であり、それで一ぱいといふ感さへするのだが、金のあり餘ってゐる不都合な一部の人たちは、もっと、自覺して貰ひたいのである。國家的な生活道德の平衡を破るのは、彼等の利己的生活態度から來ることが多すぎる嫌あるからである。

彼等のはなはだしき者は、勞者の一升ほどの賃金もしなければ、（その賃金の賄に問はずもがなである）社會的な事業、文化的な事業には目もくれず、個人生活の點で贅澤、奢侈は、戰時何物ぞといった亂暴な我がまゝ者が多い。

彼等は文化住宅に暖衣飽食、自家用の高級車は、料亭の前に何時も列をなしてゐる。ガソリンが戰場上血液のやうでも、彼等は、それを水ほども思ってはゐず、一升の白米を買ふために一里四方の米屋を巡廻する人々があっても、彼等の倉の中には、純白米がぎっしり買ひためてあるのである。

このやうなことが、國家道德上面白くないことはもとよりであるが、それらの傍若無人の利己主義の生活態度が、國家總力を要する國民大衆の生活感情に如何なる恐ろしい反感を抱かせるかを知らなければならない。かかる「持てる個人」がそのやうな非國民的生活を顧みて改悛する所なからんか、それは實に由々しき殘念さへ呼び起すのだ。

今度の新らしい年こそは、新らしい東亞の建設のために更に飛躍する年であらう。そのために、この時代の生活意識と、國家的な生活道德の徹底なる「平衡」が強調され、實踐されなければならない。

祝酒　吉井勇

大佐の　ていわしをは　焼きて酌む　年はて酒は　まつけとよし

初日影　富安風生

高あがる世紀の波濤初日影
四方のわだ浪さやぎつゝ初御空
礁うつ高き飛沫や惠方みち
故里の藥塚の徑を初詣
清閑の雛を淺く松飾り

ユーモア小説　間拔け男の話【下】
尾崎一雄

多木君は自分の空想でいい氣持になってしまった。更に彼の空想はつづく。これが一百年でなくて若い男女の一組だったら、俺のこと俺は頑張るね。ええと、どう切り出すかな。―ねえ、僕君、考へて見給へ。添はれぬといって死んだらどうなるんだね。死んで花が咲くものか。惡いことはいはない。斷然居直って、二人でどこまでも論理を張り通すんだよ。未來必らず吉し、僕が保證する。かう見えたって、僕にだって御利益えがないわけでも無いのさ……」

ちっとも、そんな覺えのない多木君は、そこまできて一寸苦笑した。實際自分にそんな思ひ出があったらどんなに樂しいだらう、などと甘酸っぽい顏をしたが、いや、人命救助ともなれば、その位の嘘は吐いたってかまはないと多木君は力み返った。

「さうして青年男女は、斷然と氣分を立て直し期待邀撃の結果、めでたしめでたし。俺はいつまでも二人から、命の親、戀の神樣とあがめ奉られる。旨いなア」

さて、そんな空想で胸をふくらませながら、多木君が相變らず公園をほっつき歩いてゐるうち、頗く最近のと、見事にある事件にぶち當った。事件にぶち當ることをあれほど念じてゐたのだから、多木君の滿足さこそといって然るべき筈のところ、事實は、それ以來あまり公園のことをいはなくなったのである。

その日多木君は、夕食の支度の出來る間一寸出てくると例によってステッキと二人連れで噴水臺から動物園の道をとった、東照宮下から不忍池について山下に出ると少しばかり夕闇の迫った公園への入口にかかった。公園散策の人たちは未だ随分見えるが、もう時刻が時刻だから歸り足の人が多い。西郷さんの銅像への石段を右に見て、暗い道をゆっくり公園に入ってゆくと、一町ばかり行ったところで二人の男が步道に立って、何か熱心に話し合ってゐる。

「ね、あれだよ、あの木のテッペンさ、何か、かう、煙みたいなものが立ち昇ってゐるぢゃないか」

一人が大げさな恰好で指さしてゐるのは、右手の高台の眞中に一際そびえた銀杏の大木のテッペンである。

「うん、さういはれてみると、かすかに煙が上ってゐるやうだ。しかし、あんなところに火があるわけはないからなア。一體これはどうしたんだらう」

片方が頻と首をかしげてゐる。

「どうしたのか知らないが、あれ、あれ、あんなに煙が出てゐるぢゃないか」

「ほんとだ、どうも不思議だなア」

二人の男のあまりの熱心さに、多木君も立止って、夕空にくっきりとそびえ立つその梢を仰いだ。よく見てゐると、氣のせゐか、煙のやうなものが、なるほど立ち昇ってゐるやうだ。火とすれば煙火だが、今どき東京の眞中の、人足繁き上野公園に、烟火は似つかはしくない。何か羽虫の類があすこを根城にして騒いでゐるのであらうか、と多木君は考へ、我ながら自分の推理の科學的なのに感心しながら、ふと氣づくと驚いた。あたりは黒山の人だかりなのである。しかもその人だかりの一人一人が、誰も彼も口を空に向けて大きく開けた間拔けな顏付を、漸く迫った夕闇の中に浮かしてゐるのである。自分もまたその一人であったかと多木君は氣恥かしくなった。念のためと再び梢を見上げると煙らしいものは見えない。おや、どうしたんだらうと、ぢっと見つめてゐると、氣のせゐか、どうやら煙らしいものがまた見え始めて來た。

「これは多分、眼の錯覺だらう。でなければ羽虫の類が交尾期で立ち騒いでゐるんだ」

多木君はその推論に滿足し依然としてポカンと口を開けてゐる連中を尻目に、人だかりをすり拔けて歸途についた。約十分で家につくと、

「歸ったぞ飯の支度は出來たか」

聲をかけて上り込んだ多木君はふところに手をつき込んで「おや」と頓間な叫びを上げた。そして、慌てゝ四方の袂など搜り廻したが、無いものはやっぱり無い。多木君はいつの間にか、蟇口を失くしてゐたのである。

多木君は無念やる方ない顏付で今日の散歩を思ひ返してみた。見事にあの二人の男にしてやられたのだ。見えもしないものが見えると騒いで人を集め、人々がポカンと口を開けてゐる間に、悠々と仕事をしたのだ。しかも、間拔けな犠牲者の一人にこの僕を選ぶとは―。

多木君はこのことがあってからあまり公園をうろつかぬやうになった。公園の話もしなくなった。小説書きの種として何か種けないかといふ氣持なぞ微かしながら公園をぶらついてゐた、それに對して見事失敗の酬ひともいふべき間拔けを喰らったからである。

「人に話も出來ない」

多木君は、細君にさへ話す氣になれず、未だに一人で口惜しがってゐる。

不連續線　春の息吹

何を歩いてゐるのであらう。何を考へてゐるのであらう。何を見てゐるのであらう。

着飾った男も女も、あてのない足を目拔きの街に運んで、たゞぼんやりと新春を享樂してゐる。

これが正月であらうか。どこに正月があるのであらうか。

「あら、お目出度うございます」

「まあ、お目出度うございます」

行きずりに交す挨拶の言葉と、その眼元にだけ、春といへば春らしいなごみが笑ってゐる。

「いかゞ」

「何ですの」

「ちよつと、お茶飲みません」

「えゝ」

つと入る喫茶店の軒に、注連飾りが風に揺れてゐる。

「もう、すぐなんでせう」

探るやうな眼で相手を見る。

「何でせうか知ら」

これも、相手の質問を軽く探るといった眼で受ける。

「まあ、しらばくれたりして」

「だって」

何がなしに嬉しいやうな、嬉しいやうな眼が笑ふ。

「あなたの縁談」

「バカ、知らないッ」

今までの緊縮な言葉が、堰を切った水のやうに、無遠慮に放出すると、あらためて二人は顏を見合せたまゝ、どッと聲をあげた。

外は、織るやうな正月の人波。

隨筆　平和の春【下】
近松秋江

フランスの文藝が以てしては到底ドイツに敵し得ない。その點に於いて日本などは文と武とが平衡を保ってゐるといひたいが私共はその點に疑る餘地がある。ところで文藝といふものは個人的享樂的のものであるとして今日の場合ひどく排斥せられて困るらしいが勿論文藝の最も繁榮を極めた時代はその一時代の人心が享樂的に傾き爛熟した時代の産物である。かういふことは今更らしく繰返すまでもなく古今東西の歴史が証明してゐるところである。我々文藝人は文藝の立場からばかりの主張をしたくないことはいふを俟たぬ。然しながら文藝殊に文學は常に個人的の享樂や悲哀をばかり謳ふものではない。例へば芭蕉にしても個々も全體をも概括し共通して人生といふものを観照してゐるのである。

むざんやな甲冑の下のきりぎりす
夏草やつわものどもが夢の跡

それから又

歌書よりも軍書にかなし吉野山

なぞの俳句を靜かに味はってみると人間の哀愁といふことがしみじみと考へられる。夏草やつはもの共が夢の跡といふ十七音字の中には武士が勇戦奮鬪した事が明麗と偲ばるゝ。それをひとり個々の詠懐にのみ拘泥してゐるのでなく悠久たる天地自然の相に取入れて永遠してゐるのである。結局文學は其處までゆかないと本當の文學といふことは出來ない。然しながらかう何時も哲學的に達觀ばかりしてゐては現實の個々の始末がつかない。其處でノモンハンの戰鬪もある。このノモンハンの戰鬪がソ聯と日本との戰鬪の結果である。それを人生を哲學的に考へる者にとっては夏草やつはものどもが夢の跡といふやうになるのである。

かういふ思想は日獨伊防共協定時代に生存した。かの有名な何とかいったロシヤの作家が戰爭の巾の結果にも戰取されるのである。然るに現實の世界ではやっぱりスターリンやモロトフのやうな連中があって戰爭を遂行してゐるのである。勿論今の時こんな呑氣なことを言ってゐては彼等をして増長せしめるから我が方でも大いに備へなければならぬが、餘りに軍國主義が強調せられる時には少數の詩人や畫家や文學者がかつて夏草やつはものどもが夢の跡と言ったやうな人生を達觀した思想を強調しても必ずしも無用ではあるまいと思ふ。これをもし軍國主義の統制を亂すものとして抑壓するとしたら文化は退歩する一方である。

私は盲人でもあり世間のことには判らぬが生産擴充といふ言葉が何も知らぬところから初めのうちは生活物資の擴充かと思ってゐたら然らずそれは戰爭に消費する物資の生産であることを知ってはゝーさうかなアと思ったことでもあった。今度で三度目の事變のお正月を迎へることになった。今日も新聞を見てゐると英國はカナダや濠洲の經濟的協力によって長期戰に一路邁進することになったといってゐる。これは見方によっては戰爭ではあるが又一面から見れば平時であるともいへる。産業を代へていへば卽ち平和産業の戰爭である。結局國と國との爭ひは戰爭そのものでなく國力戰であるから我國も一日も早く戰爭は戰爭として平時の産業體制に立直って貰ひたい。それが國民の一人として何よりの願望である。

間奏樂

松竹大船作品「愛染かつら」主題歌吹込みの縁から文字通り「愛染結婚」へと進んだコロムビア流行歌手霧島昇、松原操の結婚披露宴が帝國ホテルで行はれ愈よ型の如く新婚旅行といふ段取りとなったが、突如「そのホネムーン一寸待った」と不粋な抗議が出たといふのは新郎霧島昇が大船新作第一回物「新妻鏡」主題歌吹込を受持ってゐるので今蜜月旅行に出られては封切に間に合はぬといふ譯、御兩人大腐りに腐って迎年

漁村迎春　島田青峰

椿咲くこの浦に來て年を迎へ
枯萱のきりぎしを染め海の初日
初凪に色めく漁舟の旗さしもの
輪飾のあまの裏戸は浪も晴れ
門松にバスが下ろせしは年賀人

昭和十五辰年健康略暦

日本暦

祝祭日	月日
四方拜	一月一日
元始祭	一月三日
新年宴會	一月五日
紀元節	二月十一日
春季皇靈祭	三月廿一日
神武天皇祭	四月三日
天長節	四月廿九日
秋季皇靈祭	九月廿三日
神嘗祭	十月十七日
明治節	十一月三日
新嘗祭	十一月廿三日
大正天皇祭	十二月廿五日

支那暦

大さい 辰の方
大しやうぐん 子の方
大おん 寅の方
さいけう 辰の方
歳徳 申酉の方 万吉
さいはつ 戌の方
さいせつ 未の方
こうばん 辰の方
へうび 戌の方

武運長久・家内安全

皇軍萬歳

胃腸 榮養 **わかもと本舗**

長壽法

およそ便秘がちなる人は命みぢかし。この事よくよく心にとゞめおきて、食べもの、飲みものに氣をつけ、うんどうを怠るべからず、便とゞこほる癖ある人は(胃腸藥)わかもとの服用が好まし。まい日こゝろよき通じ定まり、五ぞう六ぷつねに若きすこやかさを保つ。

二日酔悪酔

祝ひ酒、宴會酒はうかうかと呑みすごし、宿ゑひの悔ひをのこす事多し。(胃腸藥)わかもとを頓ぶくして、酒の毒をけすに如かず、上戸下戸をえらばず、この藥ひろく用ひらる。

胸やけ溜飲

胃酸過多のしるしなり。しばしば重曹のたぐひ服みすぎて悪くす。(胃腸藥)わかもとは胃の病衰細胞を健全に化するゆゑに、原因てきに胸やけ溜飲を鎭む。もろもろの慢性胃病によし。

食あたり水あたり

飲食を絶ち(胃腸藥)わかもとを繰かへし服めば、腹中の悪きもの、きれいに下り、腹つう吐しや止む。旅かう遊さんに出かける時は、かゝる便利な救急やく、ゆめゆめ忘るべからず。

疲勞衰弱

急がしく立はたらく人は疲る。疲れがつもりつもれば衰ぢやくして結核びやうを招く。ゆゑに日頃より(胃腸藥)わかもとのもろもろの榮養に親しみ、胃と腸を強くし、疲れを防ぐこと。

ゐもん袋

(胃腸藥)わかもとのお蔭にて出征以來元氣で奮戰しありとの便り、わかもと本舗に殺到す。消化・殺菌・整腸・榮養の効果あればなり。支那全土水悪しく病多し。ゐもん袋にこの藥を加へ、喜ばれること必定。

大小の月(日本暦)

大の月
- 一月 一日みづのと卯 月 (支 卯 十二月廿三日)
- 三月 一日みづのと卯 金 (正月廿三日)
- 五月 一日きのえ辰 水 (三月廿四日)
- 七月 一日きのと巳 月 (五月廿六日)
- 八月 一日ひのえ子 木 (六月廿八日)
- 十月 一日ひのと丑 火 (九月朔日)
- 十二月 一日つちのえ寅 日 (十一月三日)

小の月
- 二月(廿九日) 一日きのえ戌 木 (十二月廿四日)
- 四月 一日きのえ戌 月 (二月廿四日)
- 六月 一日きのと亥 土 (四月廿六日)
- 九月 一日ひのと未 日 (七月廿九日)
- 十一月 一日つちのえ申 金 (十月二日)

神武天皇即位紀元二千六百年

土用 一月十八日・四月十七日・七月二十日・十月二十日
社日 三月十六日・九月廿二日
ひがん 三月十八日・九月二十日

小かん 一月六日 / 大かん 一月廿一日 / せつ分 二月四日 / そう午 二月九日 / 八十八や 五月二日 / 入ばい 六月十一日 / げし 六月廿一日 / 半げ生 七月二日

庚申 一月十八日・三月十八日・五月十七日・七月十六日・九月十四日・十一月十三日
甲子 一月廿二日・三月廿二日・五月廿一日・七月二十日・九月十八日・十一月十七日
八せん 一月十日・三月十日・五月九日・七月八日・九月六日・十一月五日
己巳 一月廿七日・三月廿七日・五月廿六日・七月廿五日・九月廿三日・十一月廿二日
三伏 七月十六日・七月廿六日・八月五日

天赦日 一月廿二日、二月五日、四月五日、六月廿日、[illegible]
二百十日 九月一日
とうじ 十二月廿二日

日曜表

月	日曜
一月	七日 十四日 廿一日 廿八日
二月	四日 十一日 十八日 廿五日
三月	三日 十日 十七日 廿四日 卅一日
四月	七日 十四日 廿一日 廿八日
五月	五日 十二日 十九日 廿六日
六月	二日 九日 十六日 廿三日 卅日
七月	七日 十四日 廿一日 廿八日
八月	四日 十一日 十八日 廿五日
九月	一日 八日 十五日 廿二日 廿九日
十月	六日 十三日 二十日 廿七日
十一月	三日 十日 十七日 廿四日
十二月	一日 八日 十五日 廿二日 廿九日

大小の月(支那暦)

大
- 十二 一月九日 火 亥 朔かのと
- 正 二月八日 木 巳 朔かのと
- 二 三月九日 土 亥 朔かのと
- 四 五月七日 火 戌 朔かのえ
- 六 七月五日 金 酉 朔つちのと
- 九 十月一日 火 丑 朔ひのと
- 十一 十一月廿九日 金 子 朔ひのえ

小
- 十一 辰一月一日 月 卯 廿二日みづのと
- 三 四月八日 月 巳 朔かのと
- 五 六月六日 木 辰 朔かのえ
- 七 八月四日 日 卯 朔つちのと
- 八 九月二日 月 申 朔つちのえ
- 十 十月卅一日 木 未 朔ひのと

初寅 正月十日　初卯 正月十二日

元神 辰巳の方

土用 十二月十日・三月十日・六月十六日・九月二十日
社 二月八日・八月廿一日
ひがん 二月十日・八月十九日

小かん 十一月廿七日 / 大かん 十二月十三日 / せつ分 十二月廿七日 / そう午 正月八日 / 八十八や 三月廿五日 / 入ばい 五月六日 / げし 五月十六日 / 半げ生 五月廿七日 / 二百十日 七月廿九日 / どうじ 十一月廿四日

きのえね 十二月十四日・二月十四日・四月十五日・六月十六日・八月十七日・十月十八日
かのえさる 十二月十日・二月十日・四月十一日・六月十二日・八月十三日・十月十四日
八せん 十二月二日・二月二日・四月三日・六月四日・八月五日・十月六日
己巳 十二月十九日・二月十九日・四月二十日・六月廿一日・八月廿二日・十月廿三日

天赦日 十二月十四日・十二月廿八日・二月廿八日・五月十五日・八月朔日・十月二日・十月十八日
十方暮 正月四日・三月四日・五月五日・七月六日・九月八日・十一月九日
天一天上 正月十三日・三月十三日・五月十四日・七月十五日・九月十七日・十一月十八日
土公 春はかまど 夏はかど 秋はゐど 冬はにわ

三りんぼう 十二月八日・二十日 / 正月七日・十九日 / 二月四日・十六日 / 三月二日・十四日・廿六日 / 四月二日・十四日・廿六日 / 五月十一日・廿三日 / 六月十日・廿二日 / 七月四日・九日・廿一日 / 八月四日・七日・十九日 / 九月二日・十八日・三十日 / 十月十七日・廿九日 / 十一月十五日・廿七日

先勝　友引　先負　仏滅　大安　赤口

複合・特許・類似

藥用酵母菌劑(胃腸藥)わかもとは絶對に他の模倣を許さざる專賣特許の製法によつて製出さるる名藥なれば、その聲價を利用し類似の名稱と外見を裝へる藥多きも、效果及ばず、代用藥なし。

せつ

十二月廿七日・正月廿八日・二月廿八日・三月廿九日・五月朔日・六月三日・七月五日・八月七日・八月八日・九月八日・十月九日

ちろ

十二月十三日・正月十三日・二月十三日・三月十三日・四月十五日・五月十六日・六月十九日・七月二十日・八月廿一日・九月廿三日・十月廿三日・十一月廿四日

産前産後

産は女の大役なれども養生よろしきをうれば安し。つわり、脚氣、腎臟炎は母子ともに危險につき(胃腸藥)わかもとの服用により救ひ防ぐこと。産安く、生れた子大きく重し。産後にもこの藥のみ續け、衰じやくの恢復を早うし乳の出と質をよくすること肝心なり。

育兒十二ヶ月

消化不良と脚氣の豫防に、發育の促進に、(胃腸藥)わかもとの著しき効果多言を要せず。用ひ方次の如し。

齡	體重(瓩)
一ヶ月	三・七
二ヶ月	四・七
三ヶ月	五・四
四ヶ月	五・九
五ヶ月	六・四
六ヶ月	六・八
七ヶ月	七・三
八ヶ月	七・六
九ヶ月	八・〇
十ヶ月	八・三
十一ヶ月	八・五
十二ヶ月	八・八

種まき

一月八日・廿日 / 二月六日ヨリ / 三月七日・廿日 / 四月六日ヨリ / 五月六日・廿一日 / 六月五日ヨリ / 七月五日・二十日 / 八月四日ヨリ / 九月三日・十八日 / 十月三日ヨリ / 十一月二日・十七日 / 十二月二日ヨリ

病氣見舞に

(胃腸藥)わかもとは病ひの根元たる人體細胞の衰弱に活力を與へ、榮養を偏頗なく補給す。健康を招くからこの上なき見舞品。

わかもと効能一覧

- 慢性衰弱症 肺炎・肺結核・腸結核・肋膜炎・カリエス・貧血・脚氣・神經衰弱
- 胃腸諸症 胃腸カタル・胃酸過多症・胃アトニー・胃擴張・胃潰瘍・食慾不振・便秘
- 虚弱乳幼兒 消化不良・綠便・粘便・虚弱人工榮養兒・腸カタル
- 姙産婦衰弱 惡阻・産前産後の衰弱・乳汁分泌不足
- 疲勞老衰 中年期衰弱・早老・スポーツ・勞働・精神作業のエネルギー補給

藥價低廉

三百錠 廿五日量 一圓六十錢
一千錠 八十三日量 五圓

發賣元 東京市 わかもと本舗
支店 大阪・臺灣・京城・奉天・北京・上海・[illegible]

これを切取つて見易い所に貼つて置けば今年中の諸行事と養生に手抜かりありません

激流（77）

久生十蘭（作）
伊勢良夫（畫）

四人の客（四）

椅子に掛けると、いきなり祝子が切り出した。
「冬彦さん、今日はすこし立ち入つたお話をするつもりなんだから覺悟してゐちやうだい」
「えゝ、覺悟してゐます」
「覺悟するほどのことぢやないけど、そんな風に愛想よくいつてくださると斷かるわ。ちよつと切り出しにくいやうなところもあるんだから」
「どうか、ひとつお手輕かに。この邊は使ひ通しなんでね」
「遠慮しないでちやうだいね。あんたのやうな大きなの、手がかゝるから」
「そんなことといふなら、ほんたうに遠慮つてあげますよ」
「ちよいと、今日はひどくウマが合ふやうね、さうぢやなくつて」

蘭の花の聚落の間に生ひ茂る株が、際に入つて眼にかゝつてゐる。
冬彦は祝子の眉根しに蘭の上に視線を漂はせながら、冗々とそのことばかり考へてゐた。
三宅夫人が熱海のこの土地を買ひたがつてゐるなどといふことは今迄考へてみたこともなかつたが、冬彦自身、僅ばかりの父の遺產の利子で暮してゐるのだから、事變以後の金利生活者の經濟的不安は身にしみてよく知つてゐる。
事變以後相續税や財產所得税の稅率が急に增加したばかりではなく、どういふ思ひがけない變動が日本の經濟組織が一變し、金利の收入などは全く期待出來なくなるかも知れぬといふ不安もあり、平價切下の斷行なども杞憂されるので、どうなるものか、まるつきり見透しのつかぬ狀態だつた。
さういふ切迫した事態になると

「およしなさい、そんな氣味の惡い眼つきをするのは」
「はア、どうせね、三宅夫人のやうには行きませんです」
「それが、切り出しにくいといふ話なんですか？」
「えゝその通り」
「いや、何か三宅夫人のことで」
「話しが上手すぎるわね……そゝその件でちよつとご忠告申しあげたいことがあるのよ。要するに、三宅さんの土地のことなんだけど」
「土地つて、この別莊の土地のことですか？」
祝子は頷いて、
「えゝ、さうなの、三宅さんは、この土地を買りたがつてゐるらしいの。ご存じぢやなかつたでせうね？」
思ひもかけないことだつたので呆氣にとられて、暗默に受け應へが出來なかつた。
祝子は、隙のない眼つきで冬彦の顏をチラチラ眺めながら、
「あなたの邸宅があるので賣りたくても賣れないといふわけなのくて（冬子夫人が、邸宅を迷惑がつてゐる）」
又が、熱帶植物で飾れる間際まで形態にコツコツやつてゐた「デンドロビユウム・ノビレ」や「ゾフロニチス・グラチフロフ」などの

不動產などは、遊びに足らひになるだけのことだから、手放すならまさに今がその時期で、躊躇するいはれなぞは毛頭ない。
（あなたの邸宅があるために、土地を賣りたくとも賣れないでゐるといふわけなの）
祝子の言葉をそのまゝに受けれゝば、三宅夫人は、自分の邸宅を迷惑に感じてゐるのに相違なくこの思ひが冬彦の氣持を沈ませた。
不測の場合に備へて、不動產などは今のうちにちやんとカタをつけて置かなければならないくらゐの事情は冬彦にもわかりすぎるくらゐよくわかるのだが、理窟は理窟として、何となく突き放されたやうな、うらさびしいものを感ぜずにはゐられなかつた。
何より、自分が夫人に邪魔にされてゐるといふその思ひがたまらなかつた。

ＤＫラヂオ

五日（金）
＝新年宴會＝
第一放送
朝の部
午前六・五〇　ニュース
七・〇〇（東）時報
七・〇一（松）神社めぐり「官幣大社出雲大社」
七・三五（道）千羽鶴の唱歌「…」兒島縣…より中繼
七・五〇（城）宮城遙拜・今日の天氣見込
七・五一（東）ラヂオ體操
九・二〇（城）氣象通報
九・三〇（各局）ごあいさつとうた「紀元二千六百年奉祝日滿支兒童交驩放送」（東京）（一）ごあいさつ（二）齊唱（イ）君が代（ロ）紀元二千六百年奉祝

本紙獨占　全高段者を總動員　東西對抗大棋戰

加藤氏一局勝・二局目

第四回　香落　七段 小泉兼吉　五段 加藤治郎

玉頭に戰火開く

觀戰記　八段 齋藤銀次郎

木村名人講評

本社特選　日本棋院五人拔戰　＝小泉氏三連勝・四局目＝

【第四回】
五段 長谷川章
四段 小泉重郎

『見合』の意義

評者、對局者意見不一致

評解　七段 鈴木爲次郎

畫の部

夜の部

あすのきゝもの　六日（土）

朝鮮郵船定期

北日本汽船出帆

朝鮮郵船株式會社